

大学生活でウェルビーイングを創る実践編 —21のウェルビーイング 教室実践集—

宮本大輝・深島孝仁

山梨学院大学

宮本

先ほどご紹介いただきました山梨学院大学 非常勤嘱託職員の宮本と。

深島

深島と申します。よろしくお願いします。

宮本

よろしくお願いします。(拍手)ありがとうございます。非常勤嘱託職員って雇用形態は皆さんの学校にもありますか。われわれも初めて聞いたと思ってね。調べてみたら、皇族の方がよく使われているんですね。ちょっとどうでもいいですね。すみません。非常勤講師プラスαというところで、このカリキュラムマネジメントも含めてやらせていただいています。

どんどんと進めていこうと思うんですけれども、今日は、YGU ウェルビーイングとは、学生に起きている変化、なぜ起きているのか、最後に、という順番でお伝えしていこうと思っているんですが、基本的には資料を見ていただければと思います。お伝えできないところは、この後のパネルディスカッションか、あとはリフレクションの機会か、あと最後のところに QR コードでわれわれのホーム上での質問も用意しているので、そちらでご連絡いただけたらと思っています。

ここまでたくさん話聴いてきてくださったので、ちょっと皆さん同士で話す時間でも取ろうかなと思うんですけど、どうですか。と言われるとちょっと緊張しません？ 僕だったら嫌ですね。はい。すごい聴くモードでいるのに。

深島

いきなりだとね(笑)

宮本

ね。急に隣の人と話してとか。こういうことをアクティブラーニングでよくやって、学生同士が喋らず、とかなっちゃうんですよね。はい。われわれもそういうことをたくさんしてきたし、経験してきたところもあって、そういうところの一つポイントとしてやらないように授業で気をつけていたりします。

われわれは何者なのかというところを少しお話しさせていただくと、昔コールドストーンというアイスクリーム屋さんで店長をやっていました。そのころからポジティブ心理学には触れていて、それを使って人材マネジメントみたいなところをやったり、あと最近コーチングという国際資格を取ってコーチングをやらせていただいたり、企業研修、組織開発というところをやっています。深島さんは何をなさっていますか。

深島

私はもともと地元山梨の県庁職員をやっていたしまして、福祉，税金，まちづくり，もうここに行けというところ転々とした(笑)。

宮本

大変だな，県庁職員。

深島

そう，そう。なので，県庁を退職後も主に福祉とか教育みたいなところにだんだんご縁ができてきて，この場所で授業をさせてもらっているような，そんな経歴の待ち主です。

宮本

はい。ありがとうございます。これは表の顔という感じなんですけども，ここに至る経緯としてはいわゆるファシリテーションとか教育という分野でやらせていただく中で青山とのご縁をいただきまして，SEL の概念を取り入れた授業をつくりたいというお話をいただいて，プロジェクトとしては2020年からですね。20年に準備させていただいて，19年と20年は別途，探求学習を取り入れた授業をやっていて，あれは大変だった話をしたいんですけど，まあいいや(笑)今日はウェルビーイングの話で20年開発，21年，22年とやらせていただいています。ここは深島。

深島

はい。そうしたら21年から開講しておりますということで，だんだんと3コマから始めて，6コマ，8コマという形で授業を展開させていただきました。中身自体もウェルビーイングⅠ，Ⅱ，ピアサポート実践。名前はいつでもいいんですけど。

宮本

三つやっています。

深島

そう。三つやっています。この後，概要の方もご説明したいと思いますが，定員は40人ですけれども，毎回1.5～2倍の申し込みがありつつ。今ここで顔が見える学生さんも幾つかいるなと思いつつお世話になりました。

宮本

はい，ありがとう(笑)。

深島

(笑)そういう状況ではあるんですけども，初年次，19年に担当した探求学習を1年生だけでというようなところからたぶん問い直すような形で，全学年・全学部対応で。毎回全体の半数弱ほどかな。

宮本

そうですね。

深島

うん。トータル982人は類推なので，かぶっている学生も多少はいるんですけども，全学年の大体25%，全学生の25%ぐらいはおそらく受講者数としているような形になっていると思います。うちはあんまり学術的に全校評価みたいなことはしていなくて，満足度を取りながらフィードバックをもらいながら，どうやって授業の中身を研鑽していくかみたいなところで少しずつ固めていったんですけども，おおむね学生の満足度としては，5段階評価で5満足というようなところがこれくらい大きな数字で。

宮本

われわれに付度している部分は？

深島

それは、どうですか。

宮本

(笑)

深島

笑っていますが。違いますか、大丈夫ですか。

宮本

大丈夫です。ありがとうございます。というご評価をいただいている、そんな授業になっています。改めて三つの科目をやらせていただいているんですけども、良かった。さっきの溝上先生のお話の中で意図は大きく外れてないと思ったんです。ちゃんと勉強してやって良かった。

ウェルビーイングⅠというところで、ご自身のウェルビーイングって何か、まさに主観的幸福って何かというところを知ってってもらっています。やっぱりその中でも他者との関わりがとても大事で、他者との関わりの中でウェルビーイングというところで、あなたについて理解して、私とあなたの中でウェルビーイングを創っていきこうってやっています。ウェルビーイングⅢの位置付けに当たるんですけど、ピアサポート実践という形で、ここに学びに来てくださった皆さんにウェルビーイングⅠやⅡの授業に入っていて、ある種 TA として活躍していただくという流れで。私たちのウェルビーイングを創るにはどうしていったらいいかと、地域や所属するコミュニティへの貢献のウェルビーイングというのを学んでいただくということをやっています。15回・15回・15回の45回です。次のスライドをお願いします。

ここはもうバーッといっちゃいます。それぞれシラバスはこんな感じで載せています。資料に載せているので、そちらをご覧くださいけたらと思います。ここからがポイントになってくるんですけど、15回、大まかに全体設計ですごく意識しているところがあって、まずはワークを通じたコミュニケーションスキルの基礎的な理解というのはどれも共通してやっています。その後に自分らしさと他者らしさを尊重する方法とありますが、ちょっとずつ自分は何を感じているんだろうというところに入っていくって、最終回は自分自身にとっての自分のウェルビーイングは何、自分と他者とのウェルビーイングは何、サポートするために何が必要って自分の言葉にしてもらおうということをやっています。これはチームティーチングで毎回やらせていただいて、40人に対して2人ですね。なので、1名あたり20名の学生を見るという形で贅沢にやらせていただいているんです。コーチングやファシリテーションを学んだ方々に来ていただいてやっています。

学生に起きている変化というところで、これ、泣いちゃうな。「大学で人と関わろうと思えた一つの大きなきっかけになった」というところですね。「レポートなど文章表現など、大学において中心的に評価される表現だけでなく、リーダーシップ、フォロワーシップやユーモア、キャラの独自性など、ワークの中で個々が強みを発揮できる場面が幾つもある。それ故に、きっかけになりました」というインタビューに実際に答えてくれているメンバーもいたり。あとは「私は人に流されることが多く、授業でもあったようにコミュ

ニケーションとるけど周りに合わせてるなんてことが多々ある。そのため、コミュニケーションが苦手で自分の意見をあまり言えないのを変えていきたいと思ったので履修しました」とエントリーシートで書いてくださっていた子がたくさんいるよという中で、特に赤字のところかな。

深島

ですね。ポイントとしてこのような変化があったということ。最終レポートとエントリーシートは文字数が違うのでもちろん文章量が多いのは当たり前なんですけど、想いのある子たちはこのような形で、大きく変化を自分の言葉で語り出す、みたいなことが授業の中の変化として起きているということを今ここでお示ししております。

宮本

はい。ここだけでもうなんか僕の場合ちょっと泣いちゃうから読めない。

深島

泣いちゃうね。次にいきましょうか(笑)

宮本

はい。いきましょう。じゃあ、なぜ変化が起きているのか——授業の工夫に入っていきたいと思います。まずインストラクショナルデザインに基づいて、結果から逆算してデザインすることを丁寧にやっています。あとここがやっぱりみそだなと思っているんですけども、最初に皆さんにとって主観的幸福って何ですかって絶対答えを求めないですね。個人の内面に焦点が当たりすぎるようなワークは絶対最初にしないです。まず最初にグループワークを中心にやって、その中でコミュニケーションの練習をしながら、そして徐々に内側に入っていくということをしていきます。なぜならばですが、グループ活動の経験から自分と他者というところを相対化する機会を得た上で、直近の経験を内省するという、その順番を通していくかなというところですよ。いきなり幸せって何ですか、あなたらしさって何ですかって聞かれたら困るけど、いろいろなグループワークをやる中で、俺はここ得意だな、ここに苦手だなんていう、そんな気づきで自分自身の気づきにつながっていくというところでグループワークから入っています。

いや、でもちょっと余談の余談なんですけど、さっき圧倒的な他者との経験、出会いって青山はおっしゃっていたけれども、この授業はすごいですよね。

深島

まあ今でも色々な種類の、これまで会ったことない人たちがいる。

宮本

それこそスポーツ推薦で入ってきた学生の子たちも授業を受けてくださっているし、留学生の子も受けてくださっているし、いろいろな思いを持って入った一般の学生もいらっしゃるという子たちが目の前で、がたいの差がすごい。

深島

レスリングの世界チャンピオン間近みたいな子もね。

宮本

そうね。この前、課金しすぎたという悩みの人が、そのレスリング部と一緒にいたりとかね。この中で本当にコミュニケーションとると本当すごいなと思うわけですけども。

というところで、その相対化の目線で配慮していったら、そういう中でどうしているかと

いうとまずは、席はトランプで決めてもらっています。自由にすると固定化して、いつメンでいつものそのメンバーの顔しか見えてこないの。あえて他者との縁をつくるためにも、偶然を言い訳にしてもらって、トランプのせいに、われわれのせいにしてくれという感じで座席を決めたり、そのトランプには質問があつて、それでコミュニケーションがとれるようなこともしていたりします。あとは本当に学生みんなに助けてもらって、先輩が後輩を助けるなんていうことも起こります。基本的には経験を通じて、グループワークを通じて学んでいただいて気づいて、こういう流れでこちらからのセオリーもお伝えしていきます。

一応、学術的な背景というところではいろいろやってきているんですけども、私自身が企業文脈のほうでウェルビーイングを企業研修の中でやっていた経験があるので、その背景というところと、あとたくさん文献を読みあさってね。

深島

もう 50 冊以上は見ながら、まあまあ一番伝えたいかなみたいなことをここに記して。

宮本

はい。本などを参考に。あとは体験というところで行くと、私自身が即興演劇というものを使って中高生向けのワークショップをやったりとか、プロジェクトアドベンチャーでも現場に立たせていただいて冒険教育もやらせていただいたりしている経験も踏まえて、授業をつくっています。授業スライドはこんな感じでお示しした上で、バーッとここは流しちゃうんですけど。

1 個だけご紹介してかこうかなと思うのは、ルールづくりの面はさっき下向さんの話ですごくいいなと思ったんですけど、このウェルビーイングの授業の中ではグランドルールづくりというのをやってもらっています。どんな形で授業をやると皆さんにとっていい場になるかって皆さん自身で考えてくださってという、一番シンプルなところからルールづくりをやりながらワークして行って、皆さんに考えてもらっています。そうすると先輩・後輩で受けたりするんですけど、この場限りでは敬語はなしにしようとか、なんかそういうルールができて良かったりしますね。

インプロのゲームもやったりしています。このインプロなんですけれども、正直、私なんかは当たり前のようにやっちゃっているけど、最初やるときどうだった？

深島

いや、信じられなかった。

宮本

(笑) そうだ。いきなりやれって言われてもね、そんな身体性ないしね。

深島

恥ずかしい。

宮本

ですね。というところで、でもここはこちら側でももちろんトレーニングの上でやるんですけども、改めてその恥ずかしさも含めてコーチたちに教えてもらっています。さらになぜならばというところで、われわれだって恥ずかしいんだけどやってみたら面白いよというところを見ていただくと、じゃあ、一緒にやろうかなという、そういった誘因とするということもあります。逆にきれいにやって、うまくやっているのを見たほうがたぶん

引いちゃうんだよね。

深島

うん。

宮本

そこですね。というところで、リアルにわれわれも戸惑いながら、でもやってみたら面白い、なんかポジティブになったとか、いろいろな発想が浮かんだとか、いいコミュニケーションができるようになったなんていう体験を皆さんにはしていただいています。

あとは、そう。彼らの言葉をできるだけ使おうというのもしています。もちろん学術的な観点でというところで正しい言葉遣いというのもお伝えしていくんですけど、じゃあ、それって言い換えると、ということは毎回毎回やっています。ちょっと時に言い換えすぎたかな、飛びすぎて違うことを言っちゃっているかなというときは、お互いに反省してフォローし合っていたりします。

深島

その後、学生が聞いて、「この言葉って今流行っているの？」って。

宮本

そう、そう。

深島

「みんなの言葉で言い換えると何？」って聞いたり。

宮本

はい。聞いたりもしています。なので。ざっくりとした語彙力が上がるというところからスタートしていたりも、このウェルビーイングの授業はしています。

最後に、もう2個か。でも、もう時間ないですね。じゃあ、こういった授業、学生さんたち、一応、手挙げで来てくださっているので意欲的ではあるんですけども、それでもなかなかやりづらいこともあったりします。そこについては、われわれは「Challenge by Choice」というところを共有してやっています。皆さんが選択していいですよ。じゃあ、本当にやらなくていいのというとなんかそんなこともなくて、一方でチャレンジを促す存在でもあるというところは共有していて、期待を持って学生に接するので単純にできないを受け入れるというわけではなく、できるところからいってみようかというところだったりとか、毎回見本となる成果物をわれわれだったり、学生同士でというところで共有してもらいながらそこに向けてやっていってもらっている。そうするとそのクラスに、ある種お互いが刺激し合いながら進んでいって、最終的にはお互い結構深い話しして、インスタ交換を当たり前にして、パートナーできましたみたいな最終レポートを見たことがありますね。

深島

初年次の一番最後の最終レポートで、「私ごとですが」って言って、「大切な人ができました」って。この場で言うかって(笑)。

宮本

あれ、良かったね。

深島

うれしかった。

宮本

うれしかった，うれしかった。本当にもう。全然，公にする必要ない。隠しごとでいいのにね，本当に。

ということで，最後にということで締めていこうと思うんですけども。やっぱりこの授業を改めて青山から機会をいただいて，深島のサポートをいただいて，今8クラスやらせていただいているんですけども，われわれ自身，特に私の言葉をちょっと話させてもらおうと，いろいろなことを教えてもらってきたなと思うんですね。このインプロもそうですし，プロジェクトアドベンチャーもそうですし，ポジティブ心理学だったり，ウェルビーイングがあることもそうだし，いろいろな経験をさせていただいてきた中で自分自身が成長してきたと思っています。本当に強く思っていて。そういった経験，最近は経験格差なんていう言葉がありますけれども，その格差が故に経験したくてもできないとか，その一歩を踏み出せないという学生さんをたくさん見る中で，その経験を共有しちゃえばという，そんな気持ちから一番やっています。その結果，今日，本校の学生の皆さんが受付とかやって本当にチャレンジしている姿を見ると，それが一番の喜びというか，それが一番でやる気になってここまでやらせていただいていたと思うので，今まで教えていただいた皆さんへの感謝と，何よりもこの授業を生かしてご自身の力で成長していただいている学生の皆さんに感謝をお伝えしたいなというふうに思っております。

ちょっと過ぎちゃった。というところでお時間でございますので，以上で終了したいと思います。どうもありがとうございました。

深島

ありがとうございました。

大学生活でウェルビーイングを創る実践編 ー21のウェルビーイング 教室実践集ー

山梨学院大学 非常勤嘱託職員
宮本大輝・深島孝仁

I.YGU ウェルビーイングとは

- ・2021年から開講（開講当初3コマ→翌年6コマ→現8コマ）
- ・ウェルビーイングⅠ→Ⅱ→ピア・サポート実践と、発展的にテーマを連続開講（後述）
- ・定員40名（毎回1.5倍～2倍の申し込み有。1年生 & 継続者を中心に選抜）
- ・全学年/全学部対応。1年生は毎回全体の半数ほど。



(※累計者数一部推計。また、分母となる大学の学生数は2021年度参照。ちなみに例年離脱者は3～8%)

I.YGU ウェルビーイングとは

個人のウェルビーイングから相互のピアサポートへ



ウェルビーイングⅠ
「私」について理解する
自己の内面を理解する
(1人称的な関わり:I)



ウェルビーイングⅡ
「あなた」について理解する
私とあなたの関係を作る
(2人称的な関わり:you&I)



ピアサポート実践
「私たち」について理解する
私たちの関係を作る
(3人称的な関わり:us)

はじめにー自己紹介



宮本大輝（ひろき）

- ・日本一のアイス屋
- ・年間300時間以上人生経験を聞く
- ・企業向け研修講師業から、組織開発支援にシフト



深島孝仁（こーじ）

- ・元県庁職員。障害福祉→税務→まちづくり担当課に所属
- ・地域（主に引きこもりや貧困世帯の子ども達）の居場所づくり支援
- ・当事者支援から、現在は主に支援者の支援にシフト

I.YGU ウェルビーイングとは

アンケートからみるウェルビーイング
(回答はいずれも1ネガティブ～5ポジティブの5段階評価。赤字は5or4の累計割合)

1. この授業は自分にとって満足できるものでしたか？ (1全く満足できなかった～5非常に満足できた)	…94%
2. 授業で学んだことについて日常生活の中で活かしてみましたか？	…87%
3. 履修前より自分のことや物事を前向きにとらえるようになりましたか？	…92%
4. 履修前より他者とコミュニケーションをとることができるようになりましたか？	…93%

(※有効回答数235人。逆にネガティブ回答はそれぞれ1:1.3%, 2:0.9%, 3:0%, 4:0.4%)

I.YGU ウェルビーイングとはーウェルビーイングⅠ

到達目標

1. 「気づく力」を高めるためのボディワークに前向きに取り組むことができる。
2. 体・気持ち・思考がそれぞれどのように相互作用をしているのかを理解し説明できる。
3. 自分自身の強みと特徴を知り、具体的な場面で強み・弱みに基づいた振る舞い方がわかる。
4. ありのままの自分を受け入れて認めることの大切さを説明することができる。
5. 自分の大切にしている価値観について、自分なりの考えを説明することができ、他者の考えを尊重することができる。

I.YGU ウェルビーイングとは ― ウェルビーイング I

授業概要

…受講者のウェルビーイング(身体的・心理的・社会的に満足のいく状態)を高めることで、大学生が日常生活の中でストレスを受けても、適応し、自分の目標を達成できるように能力を開発することを目指した授業です。

…自分を知り、他者との適切な距離を覚え、自分の気持ちを素直に伝えるコミュニケーションを身につけることに焦点を当てます。

日常の中では、他者どうコミュニケーションを取れば良いか、困難にどう立ち向かえば良いか、…こうした事例の一部をとりあげつつ、受講生自身が、自分の特性に気づき、自分で考え行動する方法をともに習得していきます。

(ウェルビーイング I シラバス「授業概要」から抜粋)

I.YGU ウェルビーイングとは ― ウェルビーイング II

到達目標

1. 自分が影響を及ぼすことができる範囲を理解し説明することができる
2. 自分の影響を及ぼす範囲を広げる方法を理解し説明することができる
3. 自分の特性を踏まえて、自分に適した人間関係の築き方を探る意欲をもつことができる
4. 自分の価値観に合わせた活動計画を作ることができる

I.YGU ウェルビーイングとは ― ウェルビーイング II

授業概要

…受講者のウェルビーイング(身体的・心理的・社会的に満足のいく状態)を高めることで、…日常生活の中でストレスを受けても、適応し、自分の目標を達成できるように能力を開発することを目指します。特に後期は他者との関係の築き方に焦点を当てます。

グループワークを通して、人を助け、人から助けをもらう方法を身につけます。また、自分の価値観に合わせた活動計画とその行動を記すことができるよう、トレーニングをしていきます。自分たちの抱える困難や難しさが、社会の中でどのように問題にされているのか。また、自分たちの特性を生かし、いかにその問題を解消していけるか。受講生自身が、自分の特性・価値観を踏まえて、自分で考え解決策を探る方法をともに習得していきます。

(ウェルビーイング II シラバス「授業概要」から抜粋)

I.YGU ウェルビーイングとは ― ピア・サポート実践

到達目標

1. 自己の特性を理解したうえで、他者への理解に前向きに取り組むことができる(自己理解・他者理解)
2. ピアサポートの理念を理解し説明することができる(理論理解)
3. ピア・サポートの理念に基づき、適切な方法でピアサポートをおこなうことができる(行動実践)

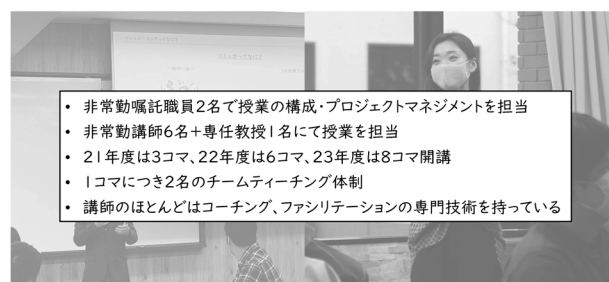
I.YGU ウェルビーイングとは ― ピア・サポート実践

授業概要

この授業は、専門家によるサポートとは違う仲間同士のサポート＝「ピアサポート」を実践する力を養うことを目的としています。ピアサポートとは、「誰もが成長する力を持っている」「誰もが自分で解決していく力を持っている」という考えのもとで行うサポートのあり方です。履修者は「ウェルビーイング」の授業に実際に入り込み、4回にわたって実践的にピア・サポートのスキルを学んでいきます。科目の特性上、この授業を履修するためには「ウェルビーイング I」もしくは「ウェルビーイング II」の単位をすでに修得していることが求められます。

(ピア・サポート実践 シラバス「授業概要」から抜粋)

I.YGU ウェルビーイングとは ― 講師について



2. 学生に起きている変化 ― 学習態度



大学で人と関わろうと思った1つの大きなきっかけになった

レポートなど文章表現など、大学において中心的に評価される表現だけでなく、リーダーシップ、フォローシップやユーモア、キャラの独自性など、ワークの中で個性が強みを発揮できる場面がいくつもある。

1. 授業の工夫: 科目全体の設計 - 成果から逆算

授業全体の設計で配慮しているのは、成果から逆にデザインすることです。インストラクショナルデザインの逆向き設計の考え方を基本に、学習目標に到達した姿、そしてその姿にどのようなプロセスで至るかを考え、授業の全体を設計しています。



※参考: 子どものゴールの姿からカリキュラムを設計する「逆向き設計」論とは
(<https://teachannel.kanken.or.jp/contents.php?c=post&id=igwK728520xa>)

2. 授業の工夫: 科目全体の設計 - 学習者相互の心理的安全性の確保

例: ウェルビーイング I の全体像 (再掲)



本科目では、科目全体を1つの授業と見立て、前半をクラスの心理的安全性を高める機会として十分な時間を確保しています。(前半6コマは協働体験とリフレクションのみ) 加えて、組織の成功循環モデルの考えをベースにしながら、学習者同士の関係性の質(≒心理的安全性)を育む機会を毎時間内包し、個人の内省や意思にフォーカスを当てる機会は、クラスの心理的安全性が高まった後半に置いています。

3. 授業の工夫: 科目全体の設計 - 相対化から内省

活動の主眼は、

- ① グループ活動の経験から、
- ② 自己と他学生を相対化する機会を得た上で、
- ③ 直近の経験をヒントに内省することです。

学生の感情やコミュニケーションの癖への気づきを、いきなり個人で内省させるのではなく(また体験の有る無しを問わず、とりあえずふんわり想起させるのでもなく) 実際のグループ活動の経験をきっかけに振り返りの機会を作っています。

4. 授業の工夫: 科目全体の設計 - 相対化から内省



相対化の目線で配慮していることは、席をくじて決めることです。席を自由にすると、仲間同士で席が固定化します。

(あえて目的にする/信頼がある場合を除き、学習目的に向かない場合がほとんどです) 席を流動的にすることで、はじめましての人とのコミュニケーションの練習ができます。また、新しい関係だからこそ見せられる顔があり、自己発見につながる機会にもなります。

5. 授業の工夫: 科目全体の設計 - 相対化から内省

ウェルビーイング II には I を修了した学生が半数程おり、交流の起点となってくれます。加えて、II から参加した学生との協働体験を複数コマ繰り返し行い、そうした機会から何が自分たちにとって大切なか、彼らが実践から内省する機会を必ず設けています。

(例: ウェルビーイング II グランドルールづくり)



6.授業の工夫:授業の設計 - TEAとEAT

学生の状態および学習内容に応じて、それぞれのモデルでコンテンツを選んでいきます。

Theory(法則)→ Experience(経験)→ Awareness(気づき)

Experience(経験)→Awareness(気づき)→Theory(法則) ←主にはコッチ



19.授業の工夫:講師の工夫 - 心も体も安全第一

様々な体験や、自己開示の機会がある授業です。
プロジェクトアドベンチャーで伝えられている言葉を借りれば、
「Challenge by Choice」
心と体の安全を第一に、チャレンジする否かのイニシアチブは
常に学生側にあることを念頭においています。

7-14.授業の工夫:授業の設計 - 理論と体験

【背景理論・トレンド的目安】

【体験・実践】



20.授業の工夫:講師の工夫 - 諦めない(チャレンジできる)環境設計

一方で、講師はチャレンジを促す存在もあります。
期待を持って学生に接し、はじめから「できない存在」として
学生を見ないことを大切にしています。
毎回見本となる成果物を共有し
他学生の成果から学習する機会を設けたり、
仮にワークについてイメージできない場合でも、
問いかけを通じて場に向かわせることを促しています。